

—若者と野球の話—

我が国の年齢別人口が、バランス上片寄っている。1億2,798万人の内65歳以上は25%を超える。更にその内70歳を超える人が12%。それに比して若い人の比率は年々減少している。労働問題で日本の将来が懸念されている。具体的には、年金問題などで将来が心配されている。

これからの日本を背負って立つ若者グループで、高校生が331万人、大学生が289万人が在学して学問に勤しんでいる。

学問は勿論、スポーツでも活躍して欲しいし、健康体で日本を世界に示して欲しい。

第96回全国高校野球選手権大会が7月末には、地方代表がほぼ決まる。

今年は、参加校が4,030校(前年比18校減)、部員数170,312人(3,224人多い)。参加校には、私立高校が多い傾向にある。たまに公立高校が出場すると、マスコミが喜ぶ。

日刊紙のスポーツ欄は、地方予選全国版で紙面の一面を使い、その地方の予選記事で二面を使って若者の活躍を称える。新聞は、プロ野球がペナントレース後半戦の熱戦、日本人が活躍する大リーグ、都市対抗野球。大相撲名古屋場所、ゴルフ国際戦、ワールドカップから国内に移ったJリーグが加わる。

高校野球硬式野球、毎年、春と夏の甲子園大会を目指して、全国で17万人の高校生が、練習に取り組んでいる。軟式でも460校、部員10,535人が明治神宮球場を目指す。合計18万人の高校生が、野球で培った能力を日本の為に尽くしてくれると思うと心強い。

高校野球と大学野球は、学校教育の一環として、位置づけられている。学びながら練習し、練習しながら学ぶのだが、グラウンドでは打って、走って、投げるのが、人間形成の教育である。2008年に公開された映画「最後の

早慶戦」のセリフに「野球は練習することに意義がある(試合の為だけではない)」と、野球を深く知らない人には教訓となった。

野球の教えは、思い遣りにあると言われている。相手の取り易い所にボールを投げてやる。試合が大差時に、送り犠打や盗塁はしてはならない。守備を優先、打者にボールをぶつけたら進塁を与える、偽投も進塁を与える、など。野球は人間形成には、飛び抜けて役立っている。

練習中は、一つの玉に全員が神経を集中する。長時間練習して体力耐久力を養う。これが社会に出て指導的社會人に成れる要素ではないか。

スポーツ人に悪人はいないという。たまに、新聞の社会面に犯罪行為で掲載される人がいるが、総じて、利用されたようだ。

甲子園は8月9日から。49地区から勝ち抜いた高校が、甲子園球場に集う。

甲子園は、野球ばかりではなく、高校生が目指す頂点にも使われるようになった。「まんが甲子園」、「書道甲子園」、「映画甲子園」、ここでも若者が汗を流している。

